

川根本町 図書室だより

6月

2022年6月号

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内7コース
TEL:0547-59-3106(文化会館)
TEL:0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間:午前9時~午後5時
- ☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(19日)
- ☆ やまびこ号巡回コースは



川根フォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新

着

図

書

『コミュニケーションは正直が9割』

田原総一郎 著 クロスメディア・パブリッシング

正直とは相手を想う行動

【実用】文



大物政治家から若手起業家、タレントまで、幅広く交遊し、時に激しく議論をたたかわせるジャーナリストの田原総一郎氏。商談から会議、雑談まで、日々のコミュニケーションで悩む多くの人におくる、シンプルかつ効果の大きい話し方、関係の築き方、わかり合う方法等、田原流・正直コミュニケーションの方法を紹介する。

『死ぬまで、働く。』

池田きぬ 著 すばる舎

97歳・現役看護師の「仕事がある限り働き続ける」生き方

【実用】山



戦前から看護婦、保健婦として活躍し、75歳のとき三重県最高年齢でケアマネジャー試験に合格。88歳でサ高住「いちしの里」に勤務。「年だからと甘えてはあかんです。できることは自分でせな」きぬさんの仕事観から、これまでの人生、上手に生きる知恵まで、語りおろす。

『ヤングケアラー 介護する子どもたち』

毎日新聞取材班

若者による、家族の介護の実態

【福祉】文

学校に通いながら、家族の介護をする子どもたちがいる。父母や祖父母、きょうだいに病気や障害があるために一番身近にいる若者たちがそのケアを担ってきた実態は、これまであまり知られていなかった。彼ら「ヤングケアラー」たちの存在を認知してもらうため、記者が丹念に取材し、追いかける過程を描いたノンフィクション。



『定年後の遊び方 心理学からのアプローチ』

赤井誠生 著 毎日新聞出版

定年後、何をどうすればよいのか

【心理】山

驚きで遊ぶ、曖昧さで遊ぶ、変化で遊ぶ、勝手な目標を立てて遊ぶ...。定年後に「何をすればいいのかわからない」という漠然とした不安がある人に向けて、心理学的知識を用いながら、人生後半戦の楽しみ方・遊び方を具体的に紹介する。



文化会館図書室

今月の 特集

発達障害を知ろう!



『発達障害に生まれて 自閉症児と母の17年』
『ちょっとしたことでうまくいく発達障害の人が上手に働くための本』
『樂々かあさんの伝わる!声かけ変換
発達障害&グレーゾーン子育てから生まれた』ほか

◎ 新着図書



新刊の詳しい情報は、
【川根本町図書ネット】で検索

文化会館図書室所蔵

山村開発センター図書室所蔵

● 『古本食堂』 原田ひ香 著 角川春樹事務所

本が好きだという想いは強いが、進路に悩む国文科の学生、美希喜。そんな時、大叔父の古書店を、彼の妹の珊瑚さんが継ぐことに。美希喜は珊瑚さんの手伝いをするようになり...

小説

● 『遺す言葉「寂庵だより」2017-2008年より』

瀬戸内寂聴 著 祥伝社
もう今夜死んでも不思議ではない年齢だ。今となっては、何も思い残すことはない。書き足りない想いもない。瀬戸内寂聴が編集長を務めた『寂庵だより』2008～2017年の随想をまとめる。

エッセイ

● 『博士の長靴』 瀧羽麻子 著 ポプラ社

天気を変えることはできない。あるがままを受け入れるしかない。天気の研究に生涯をささげた藤巻博士。博士一家・四世代の歴史と、時代ごとに変化する家族の在り方を綴った連作短編小説。

小説

● 『菜の花の道』 藤原緋沙子 著 KADOKAWA

よろず相談を受ける千成屋のお吟に、呉服太物商・天野屋から依頼が舞い込んだ。遊びほうけるおはつこの今の亭主・多七を更生させてほしいという。お吟は多七を調べ始めるが...

小説

● 『月曜日は水玉の犬』 恩田陸 著 筑摩書房

胸が締めつけられる映画、平成の三冊、スタジオジブリ...。数多のエンターテインメントを、小説家・恩田陸とともに味わい尽くす、強烈で贅沢なエッセイ集。

エッセイ

● 『シェア』 真梨幸子 著 光文社

鹿島穂花は相続した古い民家をシェアハウスにするが、想定外のリフォームで借金を負う。さらに工事中に床下からとんでもないものを発見してしまう。そしてシェアハウスには6人の女性が入居し...

小説

● 『月の王』 馳星周 著 KADOKAWA

世界大戦の暗雲が迫る上海。帝国陸軍特務機関所属の伊那雄一郎は、駆け落ちした華族令嬢の身柄を、皇家から遣わされた男・大神明とともに確保せよという密命を伝えられ。

小説

● 『図書室のはこぶね』 名取佐和子 著 実業之日本社

10年前に貸し出されたままだったケストナーの「飛ぶ教室」が、野垂高図書室に戻ってきた。体育祭を控え校内が沸き立つなか、1冊の本に秘められたドラマが動き出す。この世界が愛おしくなる瑞々しい青春小説。

小説



● 『ぼく』

谷川俊太郎 作 合田里美 絵 岩崎書店

「ぼくはしんだじぶんでしんだ」
90歳を迎える詩人・谷川俊太郎が「自死」を想い、言葉をつむいだ絵本。



● 『えんまだいおうごいっこう』

中尾昌稔 文 広瀬克也 絵 イースト・プレス

地獄のえんまさだって、たまには休みたい！ ユーモアたっぷり、地獄の住人たちの温泉旅行！

おすすめ!



(山村開発センター所蔵)

『タキミカ体操』 瀧島未香 著 中沢智治 監修 サンマーク出版

読むだけで若返る！まさに栄養本

1931年生まれ、90歳。

運動の経験は65歳までゼロ！【日本最高齢】のフィットネスインストラクターとして活躍する「タキミカ」こと瀧島未香さんが「誰でも、何歳からでもできる体操」を丁寧に紹介してくれています。

この目を疑うような、はつらつとした身体のタキミカさんを見ると、「もう歳だからしょうがない・・・」などという言葉の口にするのができなくなります。背筋をシャンとして、「憧れ」と「チャレンジ」を大事にすると気持ちが「燃え上がる」のだそう。

すごいです。90歳にして燃え上がれるとは・・・。心からあふれ出るような素敵な笑顔に燃え上がっている生命力を感じます。

タキミカさんの体操と存在の輝きに勇気と元氣をもらえる一冊です。

図書室スタッフS